

# 長畝ふるさと通信



【2020年5月号】

## ■ 一人の感染者も無く、田植え無事終了

コロナによる緊急事態宣言の中、5月2日から始まった田植は一人の感染者も出すことなく、26日で無事終わることができました。心配した水不足も適度に雨が降ったおかげで影響なく、例年に比べて比較的涼しい日が続いたおかげで「日焼け真っ黒」もありませんでした。

この間、島からはもちろん出る機会もありませんでしたが、漏れ承るところによると新潟市内も新幹線をはじめ公共交通機関はガラガラで、駅前も閑散とした状態だったとか……。まるで「別世界」に来たようだとか……。政府は「これからの新しい生活スタイルを作りましょう」などと言っていますが、どこへ行くにも「マスク着用」が義務付けられ、宴会も横並びですのような生活はゴメン被りたいものです。



## ■ これを機会に「家」を見直してみては？

長い引きこもり生活で世間様の生活消費スタイルも大きく変化しようとしています。「家食」が見直され、どこのお店でも「テイクアウト」を始めました。昔はどこの家庭でも家で食事をするのが当



たり前だったはずなのに、いつの間にか家食が家事の大きな負担となってしまう、外食に依存する家庭が増えました。「だってお父さんがずっと家に居るのよ」という主婦連の愚痴に多くのお父さんが居場所を失い、結局パチンコへ……。悲しい時代です。「テレワーク」とかいう便利な働き方ができるご時世ですから、これを機会に「お父さんもずっと家にいい」生活に見直してはいかがでしょうか。



## ■ やっぱり食糧が大事

最近、バナナが品不足だとか・・・フィリピンではロックダウンによる移動制限がかけられたせいでバナナの生産や出荷に支障が出てしまい、輸出ができず廃棄処分されていると聞きました。インドのコメやロシアの小麦など主食の生産国でも食糧確保による輸出制限がなされ、その影響で価格が高騰しているそうです。国連の食糧農業機関FAOは「多くの食糧がある

のに、食糧危機になる恐れがある」として世界的な食糧危機に警鐘を鳴らしています。思い出すのは1993年(平成5年)の「平成米騒動」です。冷夏による深刻なコメ不作となり、緊急的にタイからコメを輸入して大きな騒動となりました。今回の世界的なコロナ感染で食糧の需給バランスが崩れはしないかと心配しています。そのための食糧備蓄は大事ですが、何よりも国内での食糧生産拡大が一番重要ではないかと常々考えています。

緊急事態宣言を受け、仕事を失い所得が激減していますが、同時に需要も喪失し、需要と供給が同時に危機的状況を迎え、国の経済活動の根幹を揺るがせる事態となっています。国内には耕作放棄された農地がたくさんあり、食糧生産活動を広げる条件がいくらでもあります。今からでも国内農業を推進する政策を求めましょう。多くの若者が自ら農業を生業とする国を作りましょう。チャンスだと思うけどな～。この機会を逃したら、将来の食糧危機に備えられないと思います。

## ■ 色々試しています

右の写真はラジコンのホバークラフトポートで田んぼに除草剤を散布する様子です。水面を幅ひろく拡散する除草剤を使うことによって田んぼの中をわずか一往復するだけで除草剤が隅々まで散布できてしまいます。その間たったの1分30秒。



また、左の写真はGPSを搭載した田植え機で、ご覧のように後ろ向きになってハンドルを握ってなくても真っすぐ田植えができます。どちらの機械もメーカーのデモ機ですが、時代はどんどん変わってきています。これなら泥臭さを嫌う若者たちものってくれるでしょうか。次代を担う若者たちよ、百姓をやろう！